

本年、平成二十六年は^{うま}午年です。観音さまをお祀りするお寺のなかでは、十二年に一度の^{ごかいちよう}午年御開帳が行われるところがあります。

日本全国には数多くの観音霊場があります。有名なものでは、^{さいごくさんじゅうさんしよ}西国三十三所や坂東三十三箇所、秩父三十四箇所が知られています。

また、それぞれ通称「写し」と呼ばれる霊場が数多く存在します。例えば、秩父三十四箇所には新秩父観音霊場、足立新秩父観音霊場、准秩父観音霊場など、「秩父」の名前が入った霊場が数多くあります。

これらは、秩父三十四箇所の^{じゅんぱい}巡拝をしたいと願っても叶わなかった人々の思いから、近隣に「写し」の霊場を立ち上げたものと考えられます。

また霊場によっては、全ての場所を巡ることのできない方のために、「お砂踏み場」という各霊場の砂を一ヶ所にまとめてそれらを順に踏むことで巡拝したのと同じ御利益があるとされるものもあります。

さて、この観音さまの御利益とはどのようなものなのでしょうか？

お釈迦さまが観音さまについて述べられたとされる、^{かんのんぎよう}『観音経』にはさまざまな観音さまの力について記されています。

その一つに「盗賊に^{かたな}囲まれて刀で危害を加えられるような機会に遭遇しても、観音さまの力を念ずれば、彼らは慈悲の心を起こして危害を加えるのをやめるだろう」とあります。他にもさまざまな危難から逃れることができると記されています。

多くの人々の信仰を集める「観音さま」は、^{しゆじよう}衆生、つまり私たちの悩み苦しむ^{かん}声を観じて、その求めに応じて救いの手をさしのべる「^{かんぜおん}観世音(かんぜおん)菩薩」といわれ、^{まかはんじやほらみたしんぎよう}『摩訶般若波羅蜜多心経』では、^{かん}観じることが自在な菩薩「^{かんぜおん}観自在(かんぜおん)菩薩」とも呼ばれています。また、「^{せむいしゃ}施無畏者」とも呼ばれます。^{せむい}施無畏とは、人々の^{おそ}畏れの心を取り去って救うことをいいます。

十二年に一度の今年、秘仏とされている観音さまが公開されている場合もあります。お近くの観音霊場をお参りし、観音さまの前で静かに手を合わせる……。

^{いにしえ}古の霊場を巡っていた人々と同じように、観音さまの慈悲のところに一心に気持ちを寄せてみてはいかがでしょうか。